

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 特許公報 (B2)

(11)特許出願公告番号

特公平7-22271

(24) (44)公告日 平成7年(1995)3月8日

(51) Int.Cl. ⁹	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
H 04 B 7/26				
1/16	U 7739-5K			
	M 7739-5K			
	9297-5K	H 04 B 7/ 26	X	
	7304-5K		1 0 3 M	
				発明の数1(全10頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願昭62-31925
 (22)出願日 昭和62年(1987)2月13日
 (65)公開番号 特開昭63-199526
 (43)公開日 昭和63年(1988)8月18日

(71)出願人 999999999
 株式会社東芝
 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地
 (72)発明者 丸井 國興
 東京都日野市旭が丘3丁目1番1号 株式
 会社東芝日野工場内
 (74)代理人 弁理士 須山 佐一
 審査官 清水 康志
 (56)参考文献 特開 昭60-79838 (JP, A)
 特開 昭59-188248 (JP, A)

(54)【発明の名称】間欠受信方式

【特許請求の範囲】

【請求項1】基地局が変動することがある任意の周期でシステム情報を常時放送すると共に他の制御情報を突発的に放送し、移動局装置が前記システム情報を常時受信すると共に前記他の制御情報を選択的に受信することができる通信システムにおいて、前記基地局が、前記システム情報に、次のシステム情報を放送するタイミングを示す第1のタイミング信号を附加して放送すると共に、前記他の制御情報を放送する必要が生じたときにこの他の制御情報を放送するタイミングを示す第2のタイミング信号を附加して放送し、前記移動局装置が、前記第1のタイミング信号および前記第2のタイミング信号に基づいて、この移動局装置の受信系の回路への電源の供給をオン／オフ制御することを特徴とする間欠受信方式。

2

【請求項2】他の制御情報が、着呼情報である特許請求の範囲第1項記載の間欠受信方式。

【発明の詳細な説明】

【発明の目的】

【産業上の利用分野】

本発明は、たとえば自動車電話等の移動局が受信を間欠的に行う間欠受信方式に関する。

【従来の技術】

一般に、移動局装置にあっては、着呼に対応するため着呼信号が含まれている制御信号を常時受信することが必要とされる。

しかしながら、このような移動局装置が携帯用として用いられる場合には、電源として乾電池等のバッテリが使用されるため、上述のように常時受信状態とすることは電力消費の面において問題を有する。